



高齢者にもやさしい  
新たな6次産業の可能性を追求

伊瀬谷登会長(右端)と藤沢活性化協議会のみなさん

**休耕地を活用し、高齢者でもできる新たな特産品づくり**

キノコの栽培は、原木に菌を植え付ける方法と、おがくずや麦ぬかなどを混ぜ合わせて成形した「菌床」に菌を植え付ける方法があります。休耕地や使われていない農業用ハウスを活用し、通年で生産できる新たな特産物を模索していた藤沢活性化協議会のみなさんが、ハタケシメジの菌床栽培に取り組み始めたのは平成27年のこと。「三重県の飯南森林組合からハタケシメジの菌床ブロックを購入して、試験的に栽培を開始しました。遊休ハウスで育てたところ、1か月ほどで90%が発芽し、翌平成28年も同じ菌床から発芽しましたので、いけるとの手応えを得ました」。

数あるキノコの中でハタケシメジを選んだのは、比較の日持ちがよいこと、そしてホンシメジに近いともいわれる食味の良さから。しかし、毎年、三重県から大量に菌床を購入していたのでは輸送コストがかかり高額になります。ちょうど三重県の森林組合が菌床の販売を中止したこともあり、他のルートで入手することとしました。

**通年栽培に向けて菌床の安定的な入手が課題**

試験栽培用の菌床は、地方独立行政法人青森県産業技術センター林業研究所の「現場解決型農林業ドクター派遣研究制度」を活用し、同研究所に生産してもらうことにしました。「種苗メーカーから種菌を購入し、林業研究所で培養してもらいました。できあがった菌床ブロックを使い、遊休ハウスや山林の地面に穴を掘って伏せこむ自然栽培の試験も行ってきましたが、結果はまずまずで、菌床さえあれば通年栽培は可能と考えています。本格的な事業化に向けては、菌床ブロックを安定的に大量に購入できることが前提となりますが、現在のところ、県内でハタケシメジの菌床ブロックを生産しているところはありません」。

現在、県内のしいたけ菌床の生産者が、林業研究所の指導を受けながら、ハタケシメジ用の菌床の開発を進めています。「菌床はカビが生えやすいので、これを防ぐため、一般的には高温高圧の殺菌装置を使用しますが、これはいへん高価なものです。今、常温殺



(左) 杉林での試験栽培の状況を観察  
(右上) 乾燥ハタケシメジの試作品  
(右下) 試験栽培で発芽したハタケシメジ

菌でも培養できる種菌を探したり、おがくずやバークなどの配合割合をいろいろ試しているところなんです。こちらの栽培体制はできていますので、菌床ブロックを安定的に入手できるようにになれば、加工品の開発にも取り組んでいきたいですね」。



平内町

◎事業名

地域資源の利用による  
キノコ通年栽培技術確立事業



- 〈事業主体名〉 藤沢活性化協議会
- 〈事業年度〉 平成29～30年度
- 〈助成金使用項目〉
  - 菌床ブロック購入費
  - 栽培棚製作費
  - 遊休ハウス借り上げ費 他
- 〈連絡先〉 藤沢活性化協議会  
森田 泰男  
〒039-3361 平内町藤沢八幡19  
TEL: 017-755-3927

プロジェクトの経緯

平成29年度 平成26年度に県の集落経営再生・活性化事業のモデル地区に選定。休耕地や山林、遊休ハウスの地域での活用方法を検討する中で、秋田県大館市山田集落が原木マイタケの栽培キットを開発したことを知り、ハタケシメジの通年栽培に向けた取り組みを開始。試験栽培を重ねる。平成29年度から事業化に向けた取り組みを本格化